オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

２０２３年７月20日第32号（通巻38号）
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通１０１-４５３
tel/fax;072-737-9454
mail; oribunokai@gmail.com
facebook;oribunokai

ジェニンの攻防ー
イスラエルの総力を挙げた攻撃と
拡大する武装抵抗

西岸の抵抗運動の力におそれを抱いた占領政府は、総力でジェニンの抵抗勢力を潰しにかかった。

6 月 19 日に、空爆をともなった 2002 年来の攻撃をジェニンに仕掛け、指導者の暗殺と抵抗勢力の拠点を破壊しようとしたが、抵抗勢力が爆発物をもって抵抗し、装甲車などを破壊したことに驚いた、ネタニヤフ政権は、7 月 5 日に、それに倍する軍事力で、爆撃やブルドーザーでの道路の破壊、電気、水道などのインフラの破壊を行い、さらには、負傷者の治療にあたっていた病院を攻撃した。家を破壊され、インフラが破壊された住民たちは、避難を余儀なくされた。ジェニンの難民キャンプの住人は、78 年前にハイファなどから追い出された難民であった。12 人が殉教し、100 人以上が負傷した。その後も、武装抵抗闘争が、西岸、エルサレムで戦われている。

西岸での武装抵抗運動の拡大

武装抵抗は、ナブルスのライオンズ・デンをはじめとして、ジェニンのジェニン大隊、トルカラムのトルカラム大隊、ジェリコでも同様の武装抵抗が生まれており、若い世代の武装抵抗が拡大している。これまで武装抵抗は、ガザでの諸党派に担われていたが、それが西岸に拡大することになっている。

2002 年には、パレスチナの第 2 次インティファーダのさなか、イスラエル軍がジェニンに本格侵攻した。10 日間にわたる激しい戦闘で、パレスチナの武装勢力と市民が少なくとも 52 人、イスラエル兵が 23 人死亡した。

自治政府は、その無能とイスラエルとの治安共同で、イスラエルと闘うのではなく、パレスチナ人の武装勢力の弾圧を行ってきた。米国はこの侵攻のさなか、イスラエルとパレスチナの治安部隊の協力を呼びかけた。

そして、イスラエルは、極右政権の登場で、パレスチナの実質的な併合へ向けて、イスラエル占領軍、入植者が一体となって、パレスチナ民衆の土地の収奪、家の破壊と追放、入植地の拡大に突き進んでいる。政権の中には、自治政府の存在を否定するものまでいる状況で、ネタニヤフは、自治政府の弱体化、崩壊を防ぐために、ささえることを明言している。

こうした状況の中で、パレスチナの民衆は、占領からの解放を勝ち取るためには、武装抵抗を行わなければならないと確信するようになっている。若者たちを中心に殉教者になることを恐れず、武装抵抗を拡大せている。

なんの役割も果たさない「自治政府」

自治政府はイスラエル軍の攻撃に対して言葉で非難したり、口先では、イスラエルとの治安共同を含むイスラエルとの共同を行わないと繰り返すが、それが実質的に

実現されたことはない。パレスチナの税収を代理徴収という形でイスラエルが牛耳り、イスラエルは、様々条件をつけることで、自治政府を従わせようとしている。イスラエル軍が撤退した後､7 月 13 日に何十年ぶりかにアッバースがジェニンにパレスチナ自治政府の治安部隊を引き連れて、訪問し、殉教者に弔意を示した。その間、自治政府の治安部隊は、イスラエル軍がジェニンに入るのを阻止していた。同時に､イスラム聖戦の戦士数人をアッバースが帰ったあとに釈放するとして拘束した。その後自治政府は、国内法に違反しているとして、拘束を継続している。ジェニンの住民からは政治的な拘束であるとして自治政府に対する抗議行動を行った。

その姿は、アッバース、治安部隊が、ジェニンの住民を占領軍の攻撃から守らなかったことを示すものである。住民たちが、自治政府に期待することは、ジェニンの復興を行うことである。それは、自治政府がパレスチナの民衆を守らないことを知っているからである。

自治政府は、外国の力を借りて、イスラエルを抑えて、和平を実現することを考えてきたが、米国は、明確にイスラエルの立場にたち、欧州諸国などはイスラエル抑える力持っていない。中国が中東に進出しているが、米国の影響力を排除するために、アラブ諸国を支援し、イランとサウジの正常化を仲介することまでやっているなかで、その影響力を拡大している。

イスラエルの攻撃の理由

イスラエル政府ネタニヤフ政権がジェニンに対し、また、西岸全体に対して強硬な政策をとるのは、1 月以来続いている反ネタニヤフ政権のイスラエル国民のデモ似に対抗するためである。ネタニヤフがいくつか妥協策を出したが、デモの勢いは止まらず、また、イスラエル大統領の仲介による、野党との話し合いも、まとまらない。こうした危機の中で、ネタニヤフへの支持率は、野党のガンツに負ける状態にあり、選挙を行えば、ネタニヤフが議席を減らすことは明確であった。

こうした危機を乗り越えるために、６月９日に、ガザへの攻撃を行い、5 日間でイスラム聖戦の指導者を含む 33 人を殺害した。しかし、この攻撃では、ネタニヤフの支持率はあがらず、また、西岸での武装抵抗が拡大した。したがって、ネタニヤフはさらに攻撃する必要に駆られた。

ジェニンが西岸での武装抵抗の拠点としてみた、占領軍が、ジェニンに 2 回にわたって、空からの攻撃を含む、全面的な攻撃をかけ、抵抗勢力の拠点だけでなく、民間のインフラまで破壊を行った。

この攻撃のもう一つの側面は、政権の維持のためで、極右シオニストを政権にとどめるためには、パレスチナに強硬姿勢示す必要があるためだった。彼らは、自治政府の解体、パレスチナの併合まで、もとめる立場にあり、かれらをなだめるために、強硬な姿勢をとる必要がある。彼等の支持を失うことは、連立政権を維持できなくなるためである。

しかし、ネタニヤフは、パレスチナの武装抵抗組織に弾圧することを目的にパレスチナ自治政府の存続を必要としている。今回の軍事行動も、自治政府が弱体化していることで、武装抵抗組織を解体することを直接行うとしたことである。自治政府の役割は、イスラエルにとって、パレスチナ人によって、パレスチナの武装抵抗組織を鎮圧させることにあり、西岸での武装抵抗の拡大は、自治政府が弱体化し、崩壊する危機にあるとみている。

この結果、その後の世論調査で、ネタニヤフへの支持が若干上がった。しかし、イスラエル国民は、ネタニヤフがイスラエルの「民主主義」を破壊するものとしてみており、その反発は軍内部にまで広がっている状況は変わっていない。

中東で孤立を深めるイスラエル、影響力を失う米国

現在のネタニヤフ政権の司法改革、西岸への入植地の拡大などの政策は、国内だけでなく、米国、欧州からも批判されている。

しかし、ジェニンへのイスラエルの攻撃について、米国はイスラエルの自衛の権利を認めるとして、攻撃を容認し、ただ民間人への被害をさけるようにいっただけで、イスラエルを支持した。

米国は、サウジとイランの正常化によって、その戦略が成立しなくなり、アラブ諸国とイスラエルの正常化による再編が困難となり、また、これまで正常化を行ったアラブ諸国も離れていく状態にあり、米国の影響力は失われている。

「テロ行為を含む、市民に対するあらゆる暴力行為を強く非難する。人々が密集して暮らす難民キャンプにおけるイスラエルの空爆と地上作戦は、ヨルダン川西岸地区における過去何年もの間で最悪の暴力行為だ」という国連の非難にイスラエルは、反論し、自らの正当性に固執している。米国がいうような正当防衛ではなく、人口密集地に対する空爆をおこなうなど、その限度を超えた違法な行為である。これによって対立がさらに激化していくことは明らかであった。

アラブ諸国も、一斉にこの攻撃を非難した。アラブ連盟やイスラム協力会議の諸国・機関は、イスラエルとい

うシオニスト・アパルトヘイト政権の犯罪を明らかな国際法違反とみなすとともに、これに対し国際社会が対処する必要性を強調している

こうした状況において、イスラエルとアラブの正常化をすすめることは困難と判断した米国は、ネゲブフォーラムを延期している。また、ＵＡＥは、米国主導の軍事同盟からの脱退など、米国の中東における影響力は、低下している。

中東での構造変化は、パレスチナ解放闘争において、新たな条件を作り出した。

イスラエルのジェニンへのなりふり構わない攻撃は、はからずも、中東全体が大きく変化したこと。また、パレスチナの民衆は、「いわゆる自治政府」の欺瞞を乗り越え、自らの手で占領を終わらせる道を選んでいることを明確にした。

なんども言われてきたように、自治政府がその存立の根拠としてきたオスロ合意は、破産しており、イスラエルとパレスチナの共存をイスラエルが望まず、占領政府の手先として、パレスチナ人を抑えることにしか存在価値をみとめていない。自治政府の治安部隊の武器はパレスチナ人に向けられたものであり、パレスチナ人の武装抵抗を抑える役割しか持っていない。自治政府は、選挙をもとめるパレスチナ民衆の声を無視してきた。それは、自治政府だけではなく、ハマスなどが主導する政権ができることを恐れる、イスラエル、米国も、それを望んでいる。イスラエル、米国にとっては、現在のパレスチナが分裂している状況を継続することが望ましい。

そこには、「二国家解決方式」なぞ、存在はしない。イスラエルは、パレスチナがイスラエルに従属した状態を望んでいる。また、唯一イスラエルに圧力をかけることができる米国は、「二国家解決」の建前の下で、イスラエルを支援しており、仲介者と成りようがないし、欧州も力をもっていない。それにとって代わるものとして、トランプ政権が編み出した、反イランと経済利益に基づくイスラエルとアラブ諸国との正常化によって、パレスチナを孤立させるという「和平」案あったが、それが、中国を仲介者としてサウジとイランが関係を正常化することで、その路線を破綻させた。

サウジとイランの正常化は、イエメン戦争を終わらせ、また、シリアなどとの対立を終わらせ、中東自身での和平の構造をつくり、米国に従属せずに、独自に利益を追求する条件が作られた。

そして、それはパレスチナに新たな条件を作り出すことになっている、イスラエルは、国内的に危機にあり、政権を維持するためにパレスチナへの強硬な姿勢つづけるしかなく、それは、イスラエルが国際的に孤立することを意味している。

そして、イスラエルがパレスチナへの強硬な姿勢を強めれば強めるほど、パレスチナ民衆の武装抵抗が強まっていく。ジェニンへのイスラエルの攻撃が明らかにしたものは、西岸での武装闘争の質と量が拡大していることである。それを脅威とするイスラエルがこれまでにない

ジェニンキャンプの入り口

投稿日時：2023 年 7 月 4 日 11:10（PFLP`の HP より）

ハラム・イスタンブール

ジェニン・キャンプとその都市は、時間と空間を越えてさまざまな形をとった 75 年にわたる継続的な抵抗の総括であり、待機と遅延、そして開始、そしてキャンプを都市から切り離す目的で課されたボイコットによって中断された。しかし、彼らがキャンプをその都市から切り離そうとするたびに、キャンプは新たな夜明けのたびにその都市を目覚めさせるために立ち上がり、それらが絡み合っていることを思い出させる。

キャンプは常に、時を超えてその場所の役割という歴史的次元を目覚めさせる役割を担ってきた。この場所は、

街を守ったイラク軍の英雄たちを受け入れ、街とキャンプのルーツと重なる彼らの遺骨を保存してきた。

2 つの時代と 2 つの場所の違い：

第一の場面：　パレスチナ人村落への入植者の攻撃。ナクバ以前のシオニスト・ユダヤ人組織によるパレスチナ人村落への犯罪的攻撃を想起させるような事件で、彼らは占領軍の保護の下､家屋や財産を焼き払った。ボイコットを要求し、それができないなら武装させる。

第二の場面：ボイコットの目の下で、時間をかけてキャンプを攻撃し続けたが、ボイコットは常に彼を放っておいた。彼は常に自分自身と彼の大義を守る準備ができていた。

ジェニンキャンプは、避難所のテントを抵抗のテントに変えた思想に配慮を取り戻し、同時にボイコットの思想を捨て、侵略、殺戮、強姦、強制移住のために地球上のあらゆる場所から集まったシオニスト・ユダヤ主義の攻撃的で服従的な本質と矛盾するキャンプとその思想に配慮を取り戻す。

ジェニンキャンプの抵抗は、ボイコットを支持するパレスチナ解放機構を復活させ、その没収を取り消す必要性を示すものである。

ジェニン陣営とその都市、そしてその抵抗勢力は、陣営とその都市を切り離そうとするボイコットという考えを捨てた。

ジェニンキャンプは、時間と場所の象徴であるキャンプの考えを再考した。

ボイコットは､その選択肢を解決し､占領者がボイコットとレジスタンス、そしてコミュニケーションを理解しないすべてのグループとパレスチナ人民との間の溝を深めようとしている無益な接触を止めなければならない、Turmusaya の燃焼とジェニンキャンプとその都市の襲撃）フセイン－アル－シェイク大臣とガラント Wazir シオニスト占領軍との間で、休戦について議論した。

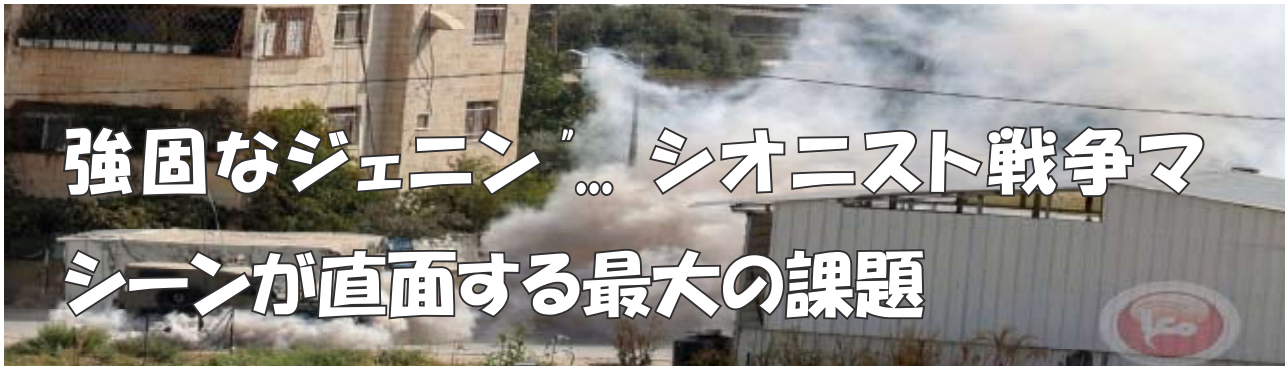
ボイコットを維持する必要性と占領とそのツールに反対するパレスチナ人大衆の動きを制御する上でその合意された役割についてのイスラエルの声明は、彼らの役割と責任は、イスラエルの安全保障上の利益の擁護者から 1 パレスチナ人の利益とその大義の擁護者に変換する必要があると考えているパレスチナの治安サービスの役割と教義について、明確に答えなければならない。

この立場は､今すぐ発表されなければならないし､ジェニン収容所とその都市、殉教者や負傷者たちとの立場を宣言するために、彼らのいるすべての場所で、わが国民の大衆からの要請を伴わなければならない。

この占領政府の必死の猛攻撃と、ヨルダン川西岸を併合し、入植地を拡大し、パレスチナの村を攻撃し、毎日のように現場で殺戮を行い、囚人や拘禁者に対する逮捕、投獄、暴行を続けるという計画の明確な発表、これらすべてを踏まえて、ボイコットはその立場を明確にし、ボイコットという考えを取り消し、取り下げ、キャンプとその都市の考えへの配慮を回復しなければならない。そして、パレスチナ解放機構とガザでのレジスタンスを支持してボイコットを中止し、アラブ政権を民族的責任の前に置き、金融経済機関との功利主義的な物々交換の市場での彼らの議題からパレスチナの大義を外すことである。

ジェニンキャンプとその都市は、他のキャンプとその都市とともに、これらの政権に自分たちのために戦うことを要求しているのではない。むしろ、占領しているシオニスト占領軍に無実の証明書を与えることをやめ、占領軍への敵意を長年表明してきたアラブ人民の資金から軍事・経済契約を結ぶことによって、占領の軍事機関に資金を提供することをやめることを要求しているのである。

特に、和平プロセスを復活させる必要性についての一部の外相の声明が続く場合、非難声明の発行はひび割れた記録となっている。和平プロセスは、占領シオニストが和平から降伏へと変貌させた、その白い色の意味しか残っていない。



強固なジェニン”… シオニスト戦争マシーンが直面する最大の課題

投稿日時：2023 年 07 月 04 日｜ 11:04（PFLP の HP より）

アハメッド・アルクナニ

何十回もの空襲がジェニンキャンプ内のいくつかの場所を標的にした。それは、ジェニンキャンプ内の抵抗組織を排除することを目的とした占領軍の軍事作戦開始の合図であり、それに向かって、大きさも重さも異なる何百台もの占領軍の車両が、ジープから始まり、人員輸送車を経て、装甲車や追跡ブルドーザーに至るまで、這い回った。.

占領軍は、先制攻撃を成功させ、収容所内で活動するレジスタンス諸派の指揮統制室や共同作戦管理所と称する場所を標的にすることで、キャンプ内のレジスタンス諸派とその民衆の培養器の間に最も広範な混乱状態を作り出そうとした。

強力で突然の先制攻撃の規模にもかかわらず、その効果は占領軍の計画通りではなかった。ジェニンの抵抗勢力は、このような裏切り的なシナリオに対処する準備を整え、先制攻撃を吸収し、隊列の結束を維持することに成功したようだ。

占領軍は、このような軍事作戦の実現可能性と影響、その規模と限界、特に自治政府の立場が微妙で正当性が損なわれていること、ヨルダン川西岸で紛争が激化するという考えを根絶するためのこのような作戦の実現可能性について、かなりの期間の波乱を経て、ジェニンキャンプに対する犯罪的軍事作戦を実行した。

最近の情勢、特に即席爆発装置の質的向上と抵抗勢力の大胆さと組織化の進展は、軍事作戦の実施に有利に傾く一因となった。軍事作戦は、占領軍がジェニンキャンプと特定した 1 つの地理的地域だけを標的にすることになるが、それにはいくつかの考慮事項がある：　過去 2 年間、ヨルダン川西岸一帯の衝突文化を刷新するうえで、同陣営が象徴的かつ重要であったこと。また、戦闘員の数、結束力、構造の硬化、行動の進化に加え、雇用や恩赦と引き換えに治安当局に投降するという方式を含め、威嚇や誘惑によるものであれ、他の解体手段が失敗したこと。

占領プロセスは、ジェニンキャンプに対する犯罪的攻撃を通じて、占領軍が達成しようとしている多くの目標を伴っている。占領軍は、過去 2 年間にジェニン大隊の戦闘員や同キャンプの活動的な軍事部門が達成することに成功し、レジスタンス戦闘員の移動と行動の激化のための比較的安全な地理的地域の創造に貢献したインフラストラクチャー、安全な環境、後方支援設備を排除することを作戦目標としているからである。

同じ側面で、占領軍は、ジェニンに対する侵略の間、可能な限り多くのレジスタンス戦闘員を無力化（逮捕または暗殺）し、キャンプ内およびキャンプ内の活動家の間に配備されている可能な限り大量の武器を回収することを目指している。

他方、占領軍は、火力使用の頻度と量を増やし、ヘリコプターや無人偵察機による空からの標的を使用する背景には、民族の意識を焼き、破壊のイメージとそれを引き起こす占領軍の軍事機械の能力を回復させ、生命と財産の損失のコストを大幅に引き上げることを目的としたショック状態を作り出す狙いがある。銃器は、半平方キロメートルを超えない地理的範囲に限定されたキャンプが必要とする規模をはるかに超えている。銃を携帯することを決意した新しいパレスチナ世代の心の中に「焼ける意識」のイメージを再び定着させ、武力紛争の文化に対する配慮を回復させることを目的としている。この文化は、占領軍が最大の「抑止力」を達成しようとするものであり、若者の心の中にある考えを抑圧し、彼らの社会と家族の間で損失を最大化することによって、それに立ち向かうことが可能である。

同じ文脈で、占領軍は、ジェニンを他の抵抗活動拠点にとっての「教訓」にしようとしている。これによって、彼らの環境に圧力をかけ、抵抗反対派に、彼らの地域への同様の破壊を免れるという正当化の下に、抵抗闘士に圧力をかける材料を与え、「事前抑止」によってこの状況を解体し、彼らやその家族、地域社会の意識を高めるように努めている。

占領軍は、ジェニンキャンプでの軍事作戦に長い時間がかかることを望んでおらず、できるだけ早く、できるだけ少ない犠牲で目的を達成しようとしている。特にヨルダン川西岸地区以外では、占領軍による抑圧、排除、分断のあらゆる試みにもかかわらず、「戦場の団結」という公式がいまだに存在しているのだから。

ジェニンに対する侵略の目標を阻止するための秘密の言葉は、ジェニンではなくパレスチナの行動に表れている。すべてのパレスチナ地域で広範な蜂起を起こし、衝突と対立のすべての地点に火をつけ、パレスチナのすべての広場をジェニンに変える。

ジェニンを対立の場だけに残すことは、ジェニンが過去 2 年間に形成してきたモデルを打ち砕き、パレスチナの良心の中で、抵抗、衝突、対立のモデルとしてのジェニンの象徴性を分断することで、占領軍の目標の成功を判断することを意味する。.

他方で、抵抗勢力は、「戦場の団結」とパレスチナの抵抗行為の統合の方程式を実践的にテストし、パレスチナのどの地点の孤立も許さないという試練に直面している。このため抵抗勢力は、犯罪的なシオニストの戦争と流されるパレスチナ人の流血に直面して、この抵抗勢力を守り、その盾となる最も効果的で有効な方法を模索する必要がある。

投稿日時：2023 年 6 月 20 日｜ 09:51（PFLP の HP より）

ジャマル・ザハラン

ムハンマド・サラー . . .　まだ 22 歳にも満たない、つまり四半世紀にも達していない、あのエジプトの青年が、国境を越え、障壁を破り、電線を切り、その足で 5 キロも奥深く占領地パレスチナの地を歩き、潜み、男女の兵士を含むシオニストの待ち伏せを強襲し、高度に発達した「アメリカ」の武装を前に、原始的な武器で彼らを即座に殺害した！それで不意打ちを食らわせたのだ。シオニストの言い分では、彼らは性的な状態にあったと言われ、過失を非難された！このナレーションの目的のひとつが、モハメド・サラーの英雄性を矮小化することにあるのは間違いない！

英雄はこの時点で立ち止まることなく、オリーブの木の下に隠れ、シオニストの敵が否定しなかった本当の衝突の場合を除き、自分の武器を見せなかった、 その結果、シオニストの死者は 4 人(今のところ階級は不明)となり、5 人目が負傷し、間もなく命を落とすことになった。5 人のシオニストを殺した英雄ムハンマド・サラーは、20 人以上のシオニストを殺した英雄スレイマン・ハテルとアイマン・ハッサンの延長線上にいる。

モハメド・サラーは、エジプトとアラブ世界全体、さらには全世界で人気のある英雄であり、あらゆる種類の社会的コミュニケーションがそれを証明している。むしろ、彼の行為は国境なき偉大な意味を確認し、シオニス

ト団体との正常化の支配者、そしてその支持者を打ち負かし、彼らは限られており、それぞれの国の片手の指の数を超えない、その支配者は正常化を決定した！

このような話は、まだ真実の全容を知ることなく流布している。エジプト側では、国境を越えた麻薬密輸業者を追っていたというナレーションが流れた。このナレーションは素朴さを特徴としているが、その危険性は、英雄モハメド・サラーが行ったことを否定し、英雄的キャラクターを奪ったことである！ある者は彼をテロリストと評し、ある者は世間知らずで、兄弟愛、男らしさ、愛国心の欠如を特徴とし、エジプト国民の一人であるモハメド・サラーを殺した裏切り者シオニストの敵の前で降伏、服従、敗北主義を支持する。.

この出来事の反響については、エジプト人とアラブ人、非武装の獄中者、国境を守る者、そしてアラビズムのパートナーであり、最悪の拷問、逮捕、屈辱にさらされている我々の中心的な大義（占領下のパレスチナ）の中で殉教したすべての人々の仇を討ったエジプトの若者／モハメド・サラーのヒロイズムである。故意に殺害し、占領地で彼らの権利を侵害したモハメド・サラーは、これらすべての復讐を果たし、殉教者の魂とともに、宇宙の神、すなわち世界の主のもとで、彼にふさわしい最大の栄誉を受けるために、彼の美しい顔に笑みを浮かべた。

同様に、英雄モハメド・サラーは、自分が行ったことで、エジプト国民が国交正常化に抵抗し、サダトが調印した休戦と降伏の和平に抵抗し、彼の後に続く者たちが守ってきた最も素晴らしい立場を、今も、そしてこれからも維持することを確認した。彼は国交正常化を拒否し、敵シオニストとの停戦を拒否し、キャンプ・デービッド条約を拒否し、シオニスト団体やそれと国交正常化した支配者に正当性を与えることを拒否し、シオニスト団体との協力や協定、長期的あるいは短期的なガス協定でさえも、政府が行っていることを拒否している。エジプト国民は、憲法（151 条）に従って議会に提出されない違法な協定に署名する政府とは完全に切り離されていると断言した。

つまり、エジプト国民は一つの谷間におり、政府と政権はシオニストの存在への対応に関して、別の谷間にいるのだ。そして私は、シオニストの市民がカイロに行き、身分を明かし、シオニストの制服を着て帽子をかぶり、占領下のパレスチナとの国境に隣接し、エジプト警察の厳重な保護の下にある「タバ」以外の広大なエジプトのホテルに泊まる勇気はないと断言する。英雄モハメド・サラーのような人が何千人も出てくるかもしれないのだから。

モハメド・サラーは、アブデル・ナセルの時代からのレジスタンスの主張が正しいことを確認した。「武力で奪われたものは武力以外では取り戻せない」のであり、和解も承認も交渉もなく、キャンプ･デービッドで起こったことも、それに続くことも、「一時的な休戦」に過ぎないのだ。十月戦争の偉大な指導者の一人（ムハンマド･アブ・ガザレ元帥）、夜明けは明けるだろう、それを廃止し、シオニスト組織を一掃し、パレスチナ全土を解放するために、エルサレムの解放を中心に、神のご意志のもとに。

抵抗の軸は勝利を収め、我々は支持者であり、支援者である。この英雄的な出来事とその名前（モハメド・サラー）は、占領地で日々起こっていることに関心のある領域を超える前例のない反応を受けたが、それはエジプトだからである、諸君。エジプトなくして戦争はなく、シリアなくして平和はない。すべての関係者は､このメッセージと教訓を理解しているのだろうか？

指揮官である英雄（ムハンマド・サラー）よ、私はあなたを誇りに思う。彼は私の古巣であるアル＝アンマール村（アル＝カリウビア県）の出身だ。あなたの勇気と英雄主義にふさわしい祝典を開催する日が、やがて来るだろう－それは神の思し召しにより、近いうちに来るだろう－。彼はパレスチナを心の中に置き、彼の手段はパレスチナを解放するための武装した軍事抵抗であり、神はその助け手である。

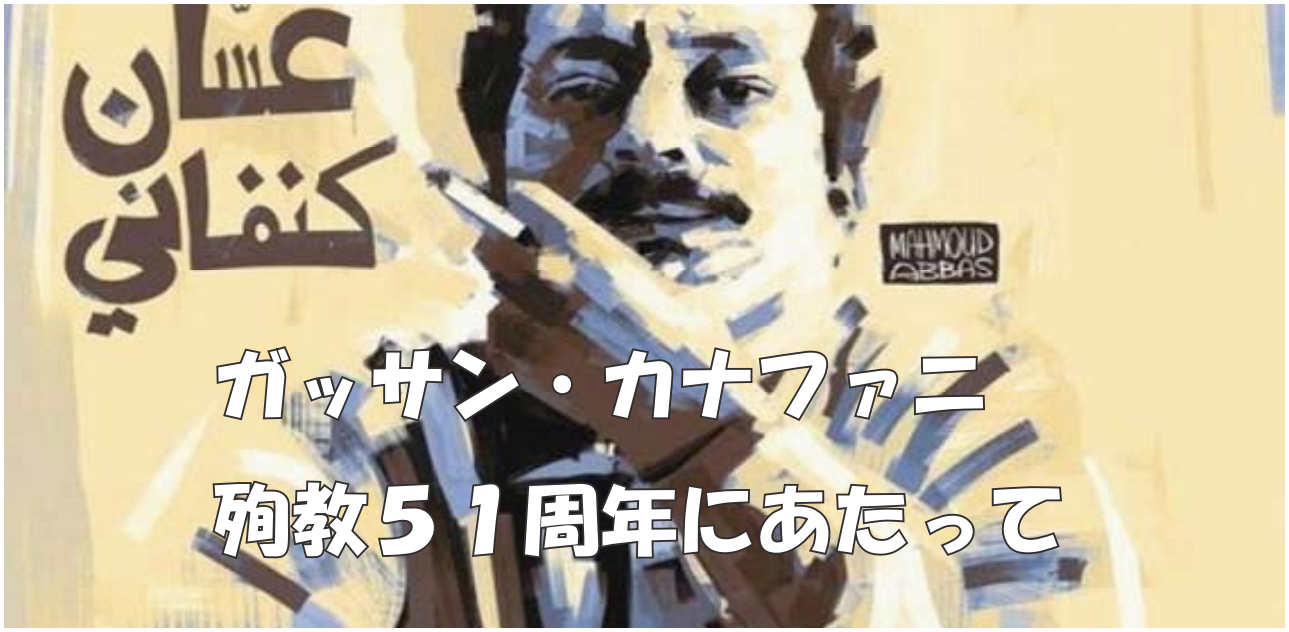
オリーブの会のメールアドレスが変わりました。新しいアドレスは以下です。

oribunokai＠gmail. com

FBは、これまでと同じ オリーブの会で検索してください。

ブログは、

blog hatena. ne. jp／olivenokai



ガッサン・カナファニ
殉教５１周年にあたって

本日 7 月 8 日は、1972 年にベイルートの自宅前で車を爆破され、姪のラミス・ナジムとともに「イスラエル」の爆弾によって暗殺されたパレスチナ人作家で活動家のガッサン・カナファニの殉教 51 周年にあたる。

ガッサン・カナファーニが登場する以前、パレスチナは肉眼で見るあらゆるものの本質のように明確であった。しかし、1961 年に最初の小説集「12 号ベッドの死」を出版したこの若い作家の出現によって、パレスチナはより明確になり、その物語はより世界に近づいた。

特に、彼の暗殺は、40 年以上前にベイルートからパレスチナに向けて書かれたはずの物語の、英雄的な終わりであったからである。

暗殺

ガッサン・カナファニは 1972 年 7 月 8 日、彼が居住していたレバノンの首都で殉教した。「イスラエル」の諜報機関（モサド）の諜報員が彼の自家用車の心臓部に爆発物を仕掛けたのだ。ガッサンは安全対策を講じる軍人ではなかったので、モサドが彼を探し出すのは容易だった。

かれの遺体の一部は、彼の最も身近にいた小さな姪、ラミス・ナジム（19 歳）と一緒に散乱した。彼はよく彼女に物語を書き、彼女の美しい日にはプレゼントを贈っていた。彼は少女に序章をつけ、彼女のような少女に贈ることができる最高のもの（物語）を示している。

彼の生涯と文学

殉教者ガッサン・カナファニは 1936 年に生まれ、偶然にも 36 年しか生きられなかったが、その間にアラブ民族主義運動に属し、パレスチナ解放人民戦線の設立に参加し、その政治局員であり、メディアのスポークスマンでもあった。フランス語と英語だ。

ガッサンはデンマーク人女性のアニー・フーバーと結婚した。彼女がパレスチナとその大義のためにレバノンを訪れたとき、彼は彼女にパレスチナとその大義を紹介した。彼女は彼の人生の大きな支えであり、彼女の人生の支えでもあった。

数年のうちに、彼は重要な政治研究に加え、何十もの短編小説を書き、何十もの小説を出版した。その後、彼は偉大な文学遺産を不朽のものとし、現代パレスチナ文学の創始者の一人、いわゆる〝抵抗の文学〟の柱の一人となった。

ガッサンは、彼の最初の作品がアラブの舞台で何千もの文学作品の中で道を切り開いたように、彼の出発から 40 年以上経った後、パレスチナ人の記憶の中で不滅の存在となった彼の創造性によって、自らの道を切り開いた。

ガッサンは、彼が初めて出版した短編集『12 号ベッドの死』の序文でこう語っている：「私は、一冊の本がそれ自体を提示すべきであり、もしその本が作家の野心の一部を達成できなかったら、作家はただそれを受け入れるべきだと信じている。そして何度も -- 物語を書き

直して破り捨てること。このように、「12 番ベッドの死」は、もし彼女が道の始まりへの道を見つけることができるのであれば、自分の力で、仲介も調停もパスポートもなしに、自分の道を切り開くよう、彼女を突き動かすのである。

ガッサン・カナファニは何十もの作品を発表しているが、なかでも有名なのは、のちに映画化もされた『ハイファへの帰還』と『太陽の男たち』である。その他、『ウム・サード』、『悲しいオレンジの国』など多くの作品がある。

しかし、『恋人』、『盲人と聾人』、『ニッサンの梅』という 3 つの小説を完成させる前に生涯を終え、殉教後に不完全な 3 部作として出版された。

数年の間に、ガッサンはアクレでの出生とヤッファでの生活と研究の間を行き来し、ナクバ後のパレスチナ難民と同じようにクウェート、ベイルート、ダマスカス、イラクを行き来する長い苦難も経験した。

この間、彼は難民学校で美術教育を教えながら、アル・フーリヤ誌、アル・ムハリール紙、アル・アンワール紙、アル・ライ誌でジャーナリズムや政治活動に携わる。そのうちの 1 つの編集長を務めることもあれば、編集者兼ライターを務めることもある。その後、安定した仕事をやめ、雑誌『アル・ハダフ』を創刊し、その編集長となり、人民戦線から正式に出版されることを決意し、今日に至る。

抵抗の文学

ガッサン・カナファニは、占領下のパレスチナと、そこでの絶え間ない虐殺の中で生まれた「抵抗の文学」の柱の一人である。ガッサン・カナファニはパレスチナの詩人を世界に紹介し、パレスチナの最も偉大な詩人の一人とされるマフムード・ダルウィーシュの出現に大きな功績を残した。1965 年、ガッサンは重要な著書『占領下のパレスチナにおける抵抗の文学』を出版した。

ナジ・アル＝アリ

ある年、殉教者ガッサン・カナファニは、アイン・アル・ヒルウェを含むレバノンのパレスチナ難民キャンプを訪れた。その時、彼は壁に描かれた絵を見て、″ナジ・アル・アリ ″という青年を知った。その時、彼は自分のドローイングを、ガッサンがクウェートから戻った後にベイルートから再出版した『アル・フーリヤ』誌に掲載することを決めた。こうして、ガッサン・カナファニの物語や文学が表現するパレスチナやアラブの問題を筆で表現するアーティスト、ナジ・アル・アリが誕生した。

我々のものではない世界

ガッサン・カナファニはその生涯において、子供たちとその際立った世界を愛し、それは 1972 年の暗殺で共に亡くなった姪（ラミス・ナジム）との強い関係にも表れている。

この関係は、ガッサンが 1965 年に短編小説集『A World Not Ours』を出版した際にも明らかであり、この短編小説は 2 人の子供、ファイズとライラに捧げられ、彼らや世界中の子供たちがより良い世界を夢見ていることを示している。

ナジ・アルアリの漫画　彼も８７年７月２２日にロンドンで暗殺された

投稿日時：2023 年 6 月 19 日｜ 09:37（PFLP の HP より）

ワシム・ラフィディ

ファシスト・シオニストの現政権が、シオニスト主体の政治的利益、その国際的地位、世界ユダヤ人の間で必要とされる政治的・外交的配慮を一切考慮することなく、ユダヤ人化と入植を最優先事項としていることに疑いの余地はない。ここに、シオニスト右派とシオニスト（左派）の違いがあり、配慮を目に入れる者と配慮を払わない者の違いがある。この両者の違いは、シオニスト・プロジェクトの歴史における、実践的（右翼）シオニズムと政治的（左翼）シオニズムの違いの延長線上にあるように見える。結局のところ、政治的シオニズムこそがシオニズムを構築し、1977 年までシオニズムを導いてきたのである。

とはいえ、シオニスト＝ファシスト政権が今日、どのような段階にまで進んでいるかは注目されるべきである。以前に立ち退いたホメシュ入植地に戻り、陸軍大臣の決定によって、ヨルダン川西岸での実際の併合と（合法的な）ユダヤ人化のための広範な権限をスモトリッチに与えている。エルサレムとマアレ・アドゥミム入植地を地理的に結ぶ、E1 として知られる最も重要な入植地拡大プロジェクトが実施された。これは、アル・トゥール、アル・エイザリヤ、アブ・ディス、アナタの土地の 1 万 2 千ドゥナムの没収を意味し、いわゆる大エルサレムをヨルダン川西岸の面積の 10%に拡大し、ヨルダン川西岸の南部と北部の完全な分離を達成するという、シオニストの 2 つの目標を達成するものであり、これらはすべて、ファシスト入植者政府がどこまで進んでいるかを示している。

ネタニヤフ首相は、”保留を表明した”アメリカや”非難した”ヨーロッパの”圧力に”基づき、プロジェクトの決定を延期した。司法計画と最高裁判事を任命する委員会の任命の問題に関して、ネタニヤフの内部状況は、少なくとも、良い兆候はなく、それゆえ、彼は、アメリカ人とヨーロッパ人との新たな一時的な外交戦、そして一時的な外交以外の何ものでもなく、まるで彼らが（彼らの留保と糾弾で）彼に言っているかのようである：落ち着け。と言っているかのようだ。そして、このアメリカやヨーロッパの懸念はすべて、イスラエルの世界における人気の低下への影響を恐れていることにほかならない。したがって、（保留と批難は）この文脈で読まれるべきである：

最低限の対決意志を欠いた、まったく無力なパレスチナの指導者たちは、同じ言説を続けている。国際社会に介入を訴え、歴史的に敗れ続けている指導者たちだけの言論として、”我々に慈悲を”という新旧のバリエーションで 2 国家解決策に泣いている。入植地攻撃に抵抗するための最低限の要素を提供しない指導者である。アメリカやヨーロッパの帝国主義政策を明確に非難し、わが国民に対する敵対政策の仲間入りをさせる演説をする代わりに、先月、何事もなかったかのように、アメリカやイギリスの特使と集中的な会談を続けている。アラブ・レベルに関しても、その立場は同じである。抵抗の枢軸を効果的にボイコットし、モロッコや首長国連邦のような、そのほとんどが国交正常化に染まり、情報・軍事協力さえしているアラブの公式政権の枢軸に実際に味方している。

他方では、入植と家屋取り壊しに抵抗する人々がいる。キレナイカでは彼らが立ち上がり、バラタ、ジェニン、ナブルス、旧市街、ナビ・サレでは殉教者が倒れ、闘いは現場の抵抗者の団結とともに続いている．．．。私たちの人々は、「抵抗は継続的な実現可能性である」というスローガンを体現し続けている。

無秩序で質的な入植地攻撃は、これまで以上に、隊列を団結させ、分裂や、団結と抵抗という民族的課題をもはや代表することができない構造に代わる効果的な、抵抗の民族的現場での団結を強化するための、現場での行動の確認を必要としている。それは、すべての個々の抵抗者、党派、勢力の課題である。

投稿日時：2023 年 6 月 26 日｜ 12:19（PFLP の HP より）

ウイサム・ラアフィディ

パレスチナ人は、シュタイエの面前でこう言ったとき、ツルムサヤが起こっていなかった。：”あなたは私たちを保護し、あなたは私たちを武装させよ。あなたが匂うとき － つまり、あなたが持っているが、美しい農民の方言で － 7 万の武装した男で、村の間でそれらを配置せよ”シオニストが彼の村に対してコミットしたものに対する彼の憎しみのアカウントを除く多くの計算、そしてツルムサヤと他の村の村を植民地化する野蛮なシオニスト入植者の攻撃の翌日だった。。

純粋に論理的に考えれば、パレスチナ人の発言は完全に論理的である。もしオスロ当局（自治政府）が、オスロによる正式名称（限定行政自治当局）ではなく、自らを（パレスチナ自治政府）と呼んだとしたら、その具体化（愛国心）がまず論理的である。国民を守らずして、何が権力者の愛国心なのか。もし、私たちの国民を守るために、ファシスト的な植民地支配者の群れに立ち向かうことが、その保護の基本のひとつでないとしたら、オスロの象徴が繰り返すポピュリスト的な話”パレスチナの国家プロジェクトの保護”は何の役に立つのだろうか？最後に、武装した 7 万人（ちなみに 8 万５千人以上という報告もある）は、われわれの民衆を守るためでないとしたら、いったい何のためにいるのだろうか？

当局の仕事は、兄弟であるあなたを守ることでも、私たち全員を守ることでもなく、その仕事は、自らを守るために国民を武装させることでもなく、そして最後に、7 万人の武装兵の仕事は、村や住民を守ることでもない。植民地シオニストの兵士や入植者を前にして、ある時点で私たちの民衆が”何らかの保護を”受けたという話を、誰か聞いたことがあるだろうか？それがオスロであり、そうでないと言う者は嘘つきであり、欺瞞者である。今日、田舎で起こっている、入植者に対する人々の抵抗と、声明、糾弾、警告による当局の争いは、何よりの証拠である。

植民地主義者の犠牲者であるパレスチナ人が、その妻とともにシュタイエに叫び、保護と武装を要求するのは当然の権利である。実際、それを要求するのは私たち国民の義務であり権利である。というのも、プロジェクトとしての当局の存在は、オスロ・プロジェクトに奉仕するためのものであり、その一部だからである。つまり、A から Z までの植民地プロジェクトに奉仕するためであり、したがって当局は国民を守ることも武装することもない。

私たちの人民は、オスロの人質となり、オスロに奉仕するためだけの構造と機能として建設された入植オプションにしがみつくエリートに賭けないという選択肢しかない。

パレスチナ日誌

3 月 13 日

・サルフィット：青年が入植者たちの投石で負傷した。
・入植者たちが、アルアクサを襲撃
・ガザ：占領軍が農地に銃撃、漁師を標的にした。
・米イスラエルの演習が開始された。
・サウジアラビアがイスラエル代表団が領土に入ることを拒否
・西岸で逮捕キャンペーン
・イスラエル軍の特別部隊がデュラの街を襲撃し、2 人の兄弟を逮捕した。
・アクレでホームレスのアブエイシー家テントが取り壊され、3 人が逮捕された。
・米国でスモトリッチの訪米に反対するデモがワシントンで行われた。
・シェイク・ジャラのハジャ・ファティマ・サレムの取り壊しを決定した。
・ナブルス近くで、占領軍への銃撃

3 月 14 日

・イスラエルの野党、司法改革を止める前の話し合いはない。
・クネセットは、ネタニヤフを服役から免除する法を可決
・占領軍は、西岸とエルサレムから 12 人の市民を逮捕した。
・占領軍は、ナブルス近くの軍事検問所で、ジェニンの知事を拘束した。
・BDS キャンペーンは、ダニ・ダモンが反テロ委員会に選出されたことを非難
ヘブロンの西で、銃撃された入植者主張
・初めて日本の防衛展示会にイスラエルが参加

3 月 15 日

・エルサレム：占領軍はウンムツバの 2 軒の家を取り壊した。
・シャビバ（ファタハの青年組織）が工科大学の学生評議会で勝利した。
・占領軍がカラワト・バニ・ハッサンの街を襲撃し、呼吸困難者が
・ガザから侵入しようとした 4 人の市民を逮捕した。
・アルキブ村 214 回目の取り壊し

3 月 16 日

・イスラエルは、レバノンから侵入した青年の逮捕を明らかに、彼らは武器をもっていた。
・サルフィットの西で、入植者たちが、2 人の青年を攻撃した。
・ナブロスへの占領軍の襲撃で、58 人が負傷した。
・西岸での捜索と逮捕
・アルアクサに入ろうとした女性が逮捕され、活動家が尋問されている。
・ラマラの西の家が取り壊された。
・アルアクサに入植者たちが押し掛けた
・サルフィット：釈放された獄中者が家宅捜査のあと逮捕された。

3 月 17 日

・新たなイスラエルのジェニンへの侵略で、4 人の殉教者と 20 人の負傷者
・ハマスは自治政府にシャラム・エルシェイク会議に参加しなように呼び掛け
・イスラエル人たちは、世界の指導者にネタニヤフをボイコットするように呼び掛け
・イスラエルのデモを再開、道路が閉鎖
・ジェニン県で、ゼネスト
・エルサレムのユダヤ化マラソンに合わせてエルサレムの道路が封鎖された。
・占領軍は、ジェニンの青年を軍事検問所で逮捕した。
・ベイト・ウマールで占領軍の発砲で、8 人が負傷した。
・ヨルダン国境でパレスチナ人たちを逮捕し、武器を押収した。
・民主戦線；シャルム・エルシェイク会議は、占領の犯罪を隠すものである。
・アルビレの北で、占領軍に銃殺された。
・入植者たちは、オリーブの樹を伐採し、フサンの石のチェーンをとりこわした。
・占領軍は、4 人のエルサレムの少年を釈放した。
・占領軍は、ジェニンの南のキリベト・ハフィラを襲撃。
・ニリンで占領軍との衝突おこる

3 月 18 日

・ニリンとナビサレで占領軍の銃弾で 4 人が負傷
・ミサイルがガザから周辺部に発射された。
・11 週目、ネタニヤフ政府に反対する大規模なデモがイスラエルを覆った。
・ファクアで、占領軍の銃弾で、子供が負傷。
・占領軍は、ジャバル・ムカベルの街の 3 人の市民を逮捕した。
・イスラエルとパレスチナの政治治安会議がシャルム・シェイクで開催
・占領軍は、エルサレムの 2 人の青年を逮捕
・占領軍は、エルサレムの東、アルザエームの二つの施設を取り壊した。
・ヨルダン渓谷で、ネゲブベドウィンの青年が刺殺された
・エルサレム、2 人の入植者が、ゲスマネ境界を攻撃

3 月 19 日

・最高裁は、ベングビールが警察活動に介入することを禁止する決定をした。
・ガザで、自治政府がシャルム・エルシェイク会議に参加することを拒否するスタンディングが行われた。
・ハワラ検問所への銃撃で 2 人が負傷、実行者は逮捕された。
・ハマスの代表団がヒズボラの書記長と会談。
・ギリシャ正教の大司教が聖地の国際的な防衛を呼びかけた。
・シャルム・エルシェイク首脳会議：パレスチナとイスラエルが平静に戻す必要性で合意。
・占領警察は、ラマンダンの機関、エルサレムで増強することを決定した。

3 月 20 日

・イスラエル当局者：パレスチナのハワラの街は、今一掃されなければならない。
・占領軍は、シリワンの二人の少年を逮捕し、アルアクサから追放した。
・ラマラの東で、入植者たちは、車のウィンドウを破壊した。
・ラマラの西で、入植者の車への攻撃で二人が負傷した。
・エリート部隊の予備役がネタニヤフへの抗議に参加。
・ジェリコの西で、入植者による攻撃で市民とその妻が負傷した。
・スモトリッチ：私が本当のパレスチナ人で、他は作られたものである。

・ナブルスで占領軍は手続きを厳格化、逮捕キャンペーン

3 月 21 日

・イスラエルの野党は、新たな司法改革案を批判した。

・ベングビールは、パレスチナの声をエルサレムと 48 年領内で、禁止にした。

・大統領府：スモトリッチの声明は、歴史の偽造である。

・ヨルダン：スモトリッチの声明は、ヨルダン・イスラエルの平和条約に違反する。

・イスラエルは、ラマダン中、イスラムの礼拝を制限する政策をとることを決定した。

・外務省は、スモトリッチの声明は、入植者のテロをエスカレートさせる扇動である。

・米国とエジプトの軍事演習が終了

・クネセットは、デリが再び閣僚に指名されることを許可する法律を通過させた。汚職で起訴されている。

・EU は、イスラエルにスモトリッチの人種主義的声明を否認するように呼び掛けた

・アルヤモウンで、3 人の青年を逮捕した。

・ベツレヘムで、占領軍は 3 人の市民を逮捕した。

3 月 22 日

・EU：クネセットの入植地についての決定は、後退している。

・占領軍は、ベイト・ハヌーンの検問所で市民を逮捕した。

・イスラエルは、レバノン国境の地雷の爆発で、2 人の兵士が負傷。

・クウェートは、スモトリッチの発言を非難。

・ワシントンは、撤退した入植地に、入植者をもどることを許可したことに非常に遺憾の意を表した。

・西岸での大規模な逮捕キャンペーン。

・イスラエルは、アレッポ、ナイラブの空港を標的に爆撃した。

・イスラエル：アイアンドームが南部ガザで、ドローンを迎撃した。

・UAE は、イスラエルにある彼らの外交代表団を減らすことを検討している。

・ムスタファ・バルグティ：イスラエル政府の行動派、シャルム・エルシェイク会議を尊重しないことを確認するものであり、それへのボイコットが必要である。

・占領軍は、ヘブロンの 8 人の市民を逮捕した。

・占領軍の医療複合施設への攻撃で、窒息者

・ネタニヤフの事務所：北部西岸に新たな入植地を設立する意図はない。

・国際アムネスティ数万の人々のパレスチナ人の家の取り壊しをやめることを呼びかける請願をイスラエルに渡す。

・占領軍は、死海近くで 2 人の青年を逮捕した。

・入植者たちは、キリベト・アルファルシヤの市民のテントを攻撃した。

・占領軍は、タイアール検問所でジェリコの青年を逮捕。

・占領軍はベイト・ハヌーン検問所で市民を逮捕

・安保理の 9 か国、入植地は違法である。

3 月 23 日

・獄中者がハンストを停止した。

・クネセットはネタニヤフが訴追されることを阻止する法律を承認。

・トルカルムで、占領軍の銃撃で殉教者。

・サルフィットの西で、占領軍は、ごみ収集車を没収した。

・イスラエルの司法改革に反対するデモが続いている。

・サウジアラビアは、西岸の撤去した入植地に入植者が戻ることを許可する決定をしたことを非難。

・イスラエルの参謀長、軍の危機を警告。

・シンベトの長官は、ネタニヤフにイスラエルは、危険な領域に近づいていると警告

・占領軍は、エルサレムの市民 3 人を逮捕。

3 月 24 日

・ベイト・ダジャンとベイタでの衝突で負傷者

・カフルカッダムで占領軍の銃撃で 6 人が負傷した。

・占領当局は、入植地に 8100 戸の家の建設を承認した。

・占領軍はエルサレムで青年を逮捕した。

・エルサレムの北、アルラムで占領軍との衝突が勃発した。

・アルーハデールでの衝突で、声援が負傷した。また、フサンで衝突が起こった。

3 月 25 日

・占領軍は、アルツルの街の衝突で数人の青年を逮捕した。

・レバノン国境で 3 人のイスラエル兵士が負傷

・占領軍海軍が、がｚの北西で、数ダウの漁船を占拠した。

・アルーラムの衝突で、窒息者

・入植者たちは、キルベト・不ムサ・アルフアウカで羊飼いを攻撃した。

3 月 26 日

・抗議は、イスラエル軍の通常の兵士まで拡大

・占領軍はシリワンの青年を逮捕。

・ナブルスの南の銃撃で、2 人のイスラエル軍兵士が負傷。

・ジェリコの北、ファサイエルの村を占領軍が襲撃し、窒息者が

・ナブルス県の複数の街での衝突で負傷者。

・イスラエルの警官が、カフル・ヤッシフで青年を処刑

・アルアクサに数十人の入植者が襲撃

・入植者たちは、ラマラの北の居住者がいない住宅を燃やした。

・占領軍はヌール・シャムスキャンプを襲撃し、3 人の市民を逮捕

・ハワラ近くに、入植地評議会の長が事務所を開いた。

・占領軍は占領下エルサレムの 3 人の青年を逮捕。

・ビルゼイト近くで、占領軍は大学生を逮捕。

3 月 27 日

・イスラエル軍はガラントの首にショックを受けている。実後の大臣は、予備役を首にする。

・イスラエル国内での大規模なデモと軍が警戒態勢に。

・占領軍は西岸で 10 人の市民を逮捕した。

・アルアクサに数十人の入植者が襲撃

・イスラエルは、UAE と FTA を結んだことを発表。

・占領軍は、ベイト・ハノウンの検問所を通過しようとした市民を逮捕

・ベングビールは、ネタニヤフの合意の下で政府から辞任するつもりである。

3 月 28 日

・8 万のデモがクネセットの近くで、衝突の脅威

・ハワラで入植者の攻撃で 6 人が負傷し、トラックが焼かれた。

・ネタニヤフは司法改革の計画を一時停止すると発表。

・占領軍はエルサレム旧市で、青年を逮捕。

・イスラエル、右翼のデモがエルサレムで、司法改革支持で。

・占領軍は、シュアファットとアナタキャンプを襲撃し、アルーザバニー家の家を計測した。

・占領軍は、西岸とエルサレムで 13 人の市民を逮捕

パレスチナの歌
蜂起の賛歌　Nashid Al Intifada

マルセル・ハリーフェ

蜂起の賛歌　　nashid al Intifada

我々は闘争の炎である

私たちは風のようなもの

私たちは与える源である

たとえ許しが乏しくなっても

わたしたちは香りの香り

私たちは良心の声

我らは雷鳴

たとえラッパが鳴り響こうとも

時の限りがわたしたちに向かって歩いてくる

われわれは無限の境界を差し出す

おお、侵略者よ

ああ、見当違いの者たちよ

これは我々の胸

／　　／

新しい夜明けのために、土の郷愁

／　　／

新しい夜明けのために、私たちは犠牲を覚悟している

わたしたちの夢は

私たちの約束は守ること

.

我々の土地における我々の権利

おいしいパレスチナ

クーサ（ズッキーニ）の詰め物

牛肉と米を混ぜたスパイスをズッキーニに詰め、ニンニク風味のトマトスープで煮込んだ料理です！

クーサはアラビア語でズッキーニの別名。。短くて幅が広いその形は、詰め物に最適。

材料

肉

・　　・４５４グラムのひき肉

野菜 & 果物

・　　・6 カケ　ニンニク・　　・
　　16 ズッキーニ

・　　・1 小さいたまねぎ

・　　・1 トマト　大 16 等分に

缶詰

・　　・8 カップ　減塩チキンスープ

・　　・1 カップ　トマトペースト

パスタ & 穀物

・　　・1 1/2 cups 白米　long grain

ベーキング & スパイス

・　　・1 小さじ 7 スパイス

・　　・3/4 小さじ 黒胡椒

・　　・3 小さじ 塩

食用油 & 酢

・　　・4 大さじ　オリーブオイル

クーサの作り方

芯を取る。

茎を切り落とし、反対側の先端を切り落とす。このとき、実を取りすぎないように注意する。よく洗い、乾燥させるのもこの時だ。

スタッフィングを作る

詰め物は、ブドウの葉の詰め物など、いろいろな料理に使う定番の牛肉のハッシュウェ（アラビア語で詰め物の意）を使う。ひき肉にオリーブオイル、スパイス、玉ねぎ（お好みで）を加えて炒め、炊飯していない米を加えて混ぜ合わせる。スタッフィングを茹でない方がいいという人もいるが、私は風味をよくするために茹でる方が好きだ。ただし、米は炊かずにスープに入れる。

詰め物を調理する工程

詰め物をする

さて、いよいよ詰め物をズッキーニに詰めていく。ご飯が炊きあがるにつれて膨らんでくるので、詰めすぎないように注意する。これは必須ではないが、密閉するために小さなトマトのくし切りを加えることをお勧めする。こうすることで、ご飯と牛肉を混ぜたものをクウサの中に閉じ込めることができる。

トマトスープでクーサを煮る

クーサに米と牛肉を詰め終わったら、トマトスープで煮込む。トマトスープの作り方はいろいろある。私はオリーブオイル、トマトペースト、ニンニク、チキンスープ、塩、コショウで作る。鍋に詰めたカボチャがぎりぎり隠れるくらいの量を作る。煮込むととろみがつくので、スープの濃さは濃すぎないように注意する。

。約 45 分から 1 時間後、煮汁が減り、クーサの色が濃くなり、詰め物が柔らかくなってくる。

クーサ作りのコツ

果肉は別の用途のために取っておく。その部分は完全に食べられ、おいしい。オムレツやフリッタータ、ババガヌーシュにも使える！

クーサを塩水で洗うと、調理の際に固さを保つことができる。中くらいのボウルに水を張り、小さじ 1 杯の塩を加え、手でカボチャをこする。

詰め物をしたクーサをトマトのくし形切りで密封する。

７月１１日、ガザ包囲を打ち破るハンダラ船が出発

７月１１日ジャーナリストラマ・ゴーシェの自宅軟禁が終わった。

7 月 11 日エルサレムで、スブラバン一家が強制的に退去させられた

今号の内容

ジェニンの攻防・・・・・・・・・・・・・・・・・1
ジェニンのキャンプと街・・・・・・・・・・・・・・3
ジェニンーシオニストが直面する最大課題・・5
正常化と服従の時代のヒーロー・・・・・・・・7
ガッサン・カナファニ殉教51周年・・・・・・8
無秩序な入植攻撃・・・・・・・・・・・・10
オスロ当局を前にした民衆の叫び・・・・・・11
パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・12
パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・14
おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・・15
トピック・・・・・・・・・・・・・・・・・16

7 月 9 日スモトリッチ財務相、パレスチナ自治政府にいかなる資金も移転することを許さない

２８週目に入った反ネタニヤフ抗議行動